

おだがいさま

odagaisama

第54号
平成26年
10月1日発行



「おねえちゃん
おんぶして」

「次は…どうなっちゃうの？」

サマーチャレンジ in くしびき ボランティア体験

7月28日から8月29日にかけて、櫛引地域の小学校4年生から一般の方を対象に、地域を知り「おだがいさま」の心を育むことを目的に「サマーチャレンジ」（ボランティア体験）が行われました。

7月27日の事前研修では、ボランティア活動の心構えや注意点、絵本の読み聞かせの方法や車イスの扱い方を学んだ後、地域内の福祉施設や病院など13か所で約1か月間にわたる活動がはじまりました。

今年度の参加者は、小・中・高校生合わせて36名。初めは緊張気味だった参加者も、高齢者や子ども達とのふれあいの中で、自分なりの活動ができるようになり、「ありがとう。」の言葉に、はにかんだ笑顔がのぞきます。

この活動を通して、「出会いとふれあい」を体験した子ども達は、貴重な体験で得た“あたたかい気持ち”を心に持ち続け、地域を担う素敵な大人に成長してくれることでしょう。

～おたがいさまの温海地域～

夢・希望を叶える 地域の取り組み



市内で積極的に取り組まれている地域福祉活動を紹介します。第2回は温海地域での取り組みを紹介します。

地区公民館事業が見直され、 温海の四つの地区に 「地区自治会」が発足しました!!

人口減少や高齢化の進展などによる地域コミュニティの変化に対応するため「鶴岡市地域コミュニティ基本方針」が一昨年に策定されました。温海地域では生涯学習などの地区公民館事業が見直され、新たに福祉・防災の機能が加えられ、四地区毎に施設を持たない「地区自治会」が今年度発足しました。

温海地域は温海かぶ、しな織りなどの特産物や歌舞伎・能などの伝統芸能も多くあり、自然と文化の魅力が凝縮された地域です。

二十七の自治会は大きく四つの地区に分かれており、人口は八、二六二人、高齢化率は三十九・二%と鶴岡市内では比較的高い地域となっていますが、介護保険の認定率は二十・五%と市の平均値（二十一・二%）よりも低く、元気な高齢者が多い地域となっています。

（平成二十六年四月一日現在）

これに伴い、第一地区自治会（山戸、五十川地区）では、民生児童委員山戸部会が中心になって地域座談会が七月十日に他の自治会に先駆けて開催されました。各自治会長、民生児童委員、警察、庁舎担当課、介護保険事業所、地域包括支援センター、温海福祉センター職員が地域福祉について意見交換した後、支援が必要な一人暮らし高齢者について、グループに分かれて地域での見守りなど



話し合いをしました。今後、第二、第三、第四地区でも計画的に地域福祉についての座談会が開催される予定です。

地域座談会を行ってみて



温海地区民生児童委員協議会
山戸部会会長
安達恵美子さん

自治会長と民生児童委員が一緒に地域福祉について考えていける機会であり、同じ山戸部会の中でも他地域はどのような対応をしているか知ることができました。

早めの地域住民の気づきや理解・つながりがあれば、状況が悪化する前に専門機関に相談することもでき、いろんなところに繋がっていけばあまり負担を感じることもなく対応ができると思いました。

なかでもワンストップサービスとして、庁舎に地域包括支援センター・福祉センターが一緒にいることで、とても相談しやすくなり、みんなに対応してくれることでとても心強く感じています。

我ら、なりげんき塾卒業生

越沢集落

ミニデイ

まやクラブ

立ち上げました!

越沢集落は、麻耶山のふもとから湧き出す「郷清水」で育つ棚田米、そして美味しいそばがあり、毎年十一月の新そばまつりではとてもにぎわう地域です。

そんな越沢では、老人クラブやミニデイサービスも行われておらず、高齢者の集まる機会が少ないという課題がありました。

昨年六月頃に、「越沢でなりげんき塾やってみなご」と、集落の女性三名が中心となり、地域住民に声をかけたところ約四十名の申込みがあり、「なりげんき塾」が始まりました。

好評のうち、介護予防体操やゲームなど十回コースが終了…。でもせっかく集まる機会が持てたのに、このまま終わるのももったいないと、ミニデイ【まやクラブ】を立ち上げることにしました。

月一度の開催ですが、温海スポーツクラブから講師を呼んで体操をしたり、会場となる公民館掃除やゲームをしたりして楽しんでおり、今後はみんなで見学研修に行こうと企画中です。



※なりげんきを元気に楽しく仲間づくり、生きがいづくり、地域づくりを行う介護予防事業市社協主催。

じぶんの町を良くするしくみ



共同募金にご協力をお願いします！

皆様からお寄せいただきました募金は、山形県共同募金会を通じて、民間福祉施設やボランティア・住民活動、市社会福祉協議会の地域福祉活動などに配分され、サロン活動や福祉教育など地域福祉推進のために役立てられます。



町に愛を。
胸に羽根を。

- 運動期間
**10月1日～
12月31日**
- 戸別募金お願い額
500円



※一世帯あたりのめやす額です。
(赤い羽根と歳末たすけあいを合わせた額です)

第27回 赤い羽根共同募金 チャリティ社交ダンスパーティーの開催！

- 日時 平成26年11月16日(日)
午後6時30分～午後9時00分
- 会場 鶴岡市小真木原総合体育館
- 参加費 1,000円
※参加費の一部は赤い羽根共同募金に
寄付されます。
- 主催 チャリティ社交ダンスパーティー実行委員会

地域・在宅福祉事業配分のご案内

- 対象 社会福祉法人、民間組織団体、
ボランティア団体
- 対象事業 平成26年度に行う事業で、先駆的な
社会福祉活動及び活動の立ち上げの
時期への支援
- 配分額 上限30万円(総事業費の4分の3の額)
- お申込み 平成26年10月24日(金)まで

◆お問合せ 山形県共同募金会鶴岡市支会 (鶴岡市社会福祉協議会内) ☎24-0053

鶴岡市社会福祉協議会

福祉のつどい

開催の
ご案内

日時
平成26年10月16日(木)
午後1時20分開会

場所
鶴岡市中央公民館

おだがいさまのまちづくりをめざして

『福祉のつどい』は、鶴岡市社会福祉協議会の基本理念である「おだがいさまのまちづくり」を進めていくために、市社協が果たす役割とその活動を広く知っていただくとともに、地域住民・団体・関係者などの協働を呼びかける機会とするために開催しています。

- 日程**
- 12:30 受付開始
 - 13:20 オープニング
くしびき東部・西部・南部保育園園児による発表
 - 開会行事
表彰
市社協の活動紹介
鶴岡市障害者相談支援センターについて
 - 講演会
 - 16:00 閉会

※当日は手話通訳・要約筆記が付きまます。
※目の不自由な方で参加ご希望の方は、市社協までご連絡下さい。

- 講演**
- 演題 「人は支え合いで輝きを取り戻す
～不登校・ひきこもり支援を通して～」
 - 講師 特定非営利活動法人 わたげの会
社会福祉法人 わたげ福祉会
 - 理事長 あきた あつこ 秋田 敦子氏

*平成9年にお年寄りや障がい者の居場所(サロン)を開設。同年「NPO法人わたげの会」、平成16年に「社会福祉法人わたげ福祉会」を設立。現在に至る。音楽講師をしながら老人施設・障害者施設で音楽療法ボランティアに20年以上携わる。

多数の皆様のご参加をお待ちしております
※駐車場が限られていますので、乗り合わせて参加下さるようご協力をお願いいたします。

“いつでも” “誰でも” “どこでも” 福祉が学びあえる鶴岡市を目指して!!



講師：原田正樹氏
日本福祉大学教授

8月9日に第三学区コミュニティセンターで「平成26年度福祉教育推進研修会」が82人の地域福祉関係者の参加のもと、開催されました。講師には日本福祉大学の原田正樹教授をお迎えし「共に学びあう福祉教育のすすめ」をテーマに福祉教育を「共同実践」することの大切さや、「地域ぐるみの視点」についてお話をいただき、その後、市内各所で「心の授業」を行っている武久明雄さん、朝陽第二小学校で福祉教育に取り組む今野新一先生を交えシンポジウムが行われました。



住民一人ひとりの福祉意識その高まりがカギ

市内ではどんな活動をしているの？

活動の一部を紹介

地域では… 第一コミセンで「心の授業」

8月5日に第一学区コミュニティ防災センターで、南部児童館(第一学区学童保育所含む)を利用する4～6年生の児童31名を対象に「心の授業」が開催されました。

この事業は、第一学区社会福祉協議会が推進する「いい子を育てるふれあい地域づくり事業」の一環として初めて行われたものですが、講師に武久明雄さんと秋山禄宣さんが招かれ、困難にぶつかっても決してあきらめないこと、夢に向かって努力することの大切さ、友達の大切さなどが、参加した児童たちにこの授業を通して伝えられました。



企業では… 「小さな親切」の会「バリアフリー教室」

鶴岡市内の企業と個人会員の皆様により組織される“鶴岡「小さな親切」の会”(事務局：荘内銀行ふるさと振興室)では、昭和57年より、思いやりの心あふれる住みよい地域社会を目指し、親切をした人への実行章の贈呈など、様々な福祉活動を行っていますが、30周年を迎えた3年前から、市内の子どもたちを対象にしたバリアフリー教室も開催しています。

8月2日にボランティアセンターの協力のもと市内大型店舗を会場に行われた教室では、参加した子どもたちが車イスやアイマスクを使った店内めぐりや階段昇降、買い物などにより、普段とは違った“バリア”を直接体感しました。活動を終えた子ども達は「困っている人を見かけたら、自分から進んで声をかけたい。」と大きな声で約束していました。



「あれ？とどかないや」

共に学びあう福祉教育のすすめ

～かかわりあい ささえあう まちづくり～

●“サービス”“システム”そして“住民の福祉意識”の三つを相互に拡充させていくことが重要!!

地域福祉を推進するためには、個人を支える“サービス”それを提供する“システム”そしてその根底にある“住民の福祉意識”の三つの要素が挙げられます。具体的なサービスをピラミッドの頂点だとすれば、それを支えるのがシステム、そして一番の土台になるのが住民の福祉意識です。

このピラミッド全体を大きくしていくことが地域福祉を進めるということになりますが、土台となる住民の福祉意識を高めていくための福祉教育は大変重要なものとなります。

●学習プログラムをより豊かにするために「地域ぐるみ」の視点を!!

地域住民の方々や福祉関係機関、社会福祉協議会などでは、これまでも「地域福祉は福祉教育に始まり福祉教育で終わる」を合言葉に、福祉教育の推進に力を入れてきたと思われませんが、より豊かな学習プログラムを創るために重要になってくるのが「地域ぐるみ」の視点です。具体的には、学校だけではなく、地域のさまざまな人材が、企画の段階から振り返りまで一緒になって福祉教育の実践に関わっていくことが求められています。地域の人材が住民同士のかかわりの中で福祉意識を高め、新たな人材を育てるサイクルを生み出すことにより、主体的な地域福祉の推進が可能となるのです。

“いつでも”“誰でも”“どこでも”福祉が学びあえる鶴岡市を目指して、各地で福祉意識が醸成される取組みが広がっていくことを期待します。

学校では…

ピアノ演奏で視覚障がい者と交流

朝陽第六小学校では、毎年3年生を対象に福祉への理解を深める学習を行っています。

今年は6月26日に視覚障がい者の高橋祐輔さんを講師に迎え、日常生活を支えてくれる道具のお話や得意なピアノ演奏を披露していただきました。高橋さんのピアノで合唱する場面もあり、終始明るく楽しい雰囲気での学習となりました。

参加した児童からは「人とどうやって接して、心を通わせるかを大事にして生活したいです」などの感想が寄せられました。



ピアノ演奏に感動する児童たち

学校では…

養護学校でスクールボランティアセミナー開催

7月30日に山形県立鶴岡養護学校で、地域で障がいのある方とともに活動する人材の育成などを目的としたスクールボランティアセミナーが開催されました。

セミナーには、高校生や大学生など42名が参加し、養護学校の児童・生徒と一緒に作業を体験したり、ゲームや昼食交流などを楽しんだ後、生徒が地域で安心して暮らしていけるよう、学校で取り組んでいる交流活動や、ボランティアセンター職員の講話(ボランティアの活動内容や心構えなど)を聴き、地域行事などに参加し地域住民とのかかわりを深めていくことの大切さやスクールボランティアの役割などについて理解を深めました。

施設では…

児童館でボランティアの育成を!!

鶴岡西部児童館では、小学生を対象に「人の役に立つ」体験を通してやさしさを育む「ボランティア教室」の開催に取り組んでいます。

7月5日の講座でボランティアセンターや老人デイサービスセンターふれあいの職員から話を聞いた後、8月9日には「ふれあい」の夏まつりに参加。初めて体験するボランティア活動に少々戸惑う場面もありましたが、利用者の皆さんとのお話や「カブトムシの木登り競走」を楽しみ、充実したボランティア体験となりました。



「おばあちゃんのカブトムシ
元気いいね」
「そうでしょ!!こうやると
もっと元気が出るんだよ」

トピックス



～東京パラリンピックで 手話通訳!! を目標に～

今年も手話奉仕員養成講座(基礎編;鶴岡市障害者相談支援センター主催)が三ツ澤幸さんと地主幸子さんを講師に迎え、「にこ♡ふる」で開催されています(5～11月;全26回)。「東京パラリンピックのお手伝い(手話通訳等)が出来ればと、それを目標に楽しく参加しています」「スーパーで買い物している時など、店内アナウンスはろう者には聞こえないので、そんな身近な場面で何かお手伝いがしたくて」と意欲的な方々もおり、8月8日の講座「2つのことを同時に表現してみよう」では、より豊かな表現を目指す受講生の「積極的な手話」が繰り広げられていました。



「パラリンピックが待ちどおしい～」



指文字で「お」「だ」「が」「い」「さ」「ま」

「先生方がとてもフレンドリーだから」と受講生に信頼される講師の地主さん(ろう者)は、「手話がろう者の言語であることを広く知ってもらえれば…」との思いを語り、続いて、6月の市議会で可決された「手話言語法の制定を求める意見書」に触れ、「手話の普及や手話を使用する環境の整備によって、市民やろう者が尊重しあいながら支え合える地域社会を目指したい」と、「まちづくり」への思いについても、意欲的に語っていただきました。

「先生方がとてもフレンドリーだから」と受講生に信頼される講師の地主さん(ろう者)は、「手話がろう者の言語であることを広く知ってもらえれば…」との思いを語り、続いて、6月の市議会で可決された「手話言語法の制定を求める意見書」に触れ、「手話の普及や手話を使用する環境の整備によって、市民やろう者が尊重しあいながら支え合える地域社会を目指したい」と、「まちづくり」への思いについても、意欲的に語っていただきました。

情報掲示板

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 鶴亀番付発行のお知らせ ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

今年度も敬老の日に合わせて、長寿者へのお祝いと市民の励みにしていただくことを目的に鶴亀番付(長寿番付)を発行しました。

この鶴亀番付は、昨年度、満年齢で97歳以上の方を対象に掲載してまいりましたが、対象者の増加、用紙や文字の大きさなどを考慮し、今年は98歳以上(基準日8月31日)の方を対象に掲載させていただき、対象者ご本人や施設、公民館等へ送付させていただいております。

これからもご高齢の方々のご長寿を心より願っております。

ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます。
(平成26年7月10日から平成26年9月9日までのご寄付を掲載しています)

★一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センターへ

- ・鶴岡建設株式会社親善ゴルフ大会 様 150,000円
- ・高橋 俊 様 各種タオル一式

◎榊引福祉センターへ

- ・黒井 裕子 様
- ・ベビー用品3点(ゆりかご、歩行器、クーハン)

◎温海福祉センターへ

- ・伊藤 一昌 様 50,000円
- ・野尻 文嗣 様 100,000円

★東日本大震災の避難者支援活動へ

- ・匿名 様 毛糸一式(段ボール1ケース分)

★高齢者福祉センターおおやまへ

- ・大山フードセンター 様 2,300円
- ・匿名 様 花火一式(30パック)
- ・侑ドリームファーム 様 枝豆(3.7kg)
- ・菅原 美佐子 様 50,000円

★老人デイサービスセンターおおやまへ

- ・木村 美恵 様 折りたたみシャワーベンチ(一脚)
- ・佐藤 春美 様 栄養サポート飲料、食品一式

★温海デイサービスセンター愛寿園へ

- ・ふるさと温海会 様 67,600円
- ・岩浪 妙子 様 10,000円
- ・佐藤 三郎 様 30,000円

★陽光児童館へ

- ・吉住 光史 様 歴史学習漫画教材(22巻)

おだがいさま

第54号
平成26年10月1日発行
発行部数 49,300部



編集・発行

社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会
鶴岡市泉町5番30号(にこ♡ふる2階)

TEL 24-0053 FAX 23-9110

ホームページ <http://www.shk01.jp/>

鶴岡福祉センター TEL 24-0053

藤島福祉センター TEL 64-3100

羽黒福祉センター TEL 62-4534

榊引福祉センター TEL 57-5300

朝日福祉センター TEL 53-2795

温海福祉センター TEL 43-2114

この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。